

# 意見陳述

私は10年前から都市の水源自立をめざして、雨水を資源として活用しようという市民運動に参加してきました。

東京に降る雨は年間約25億トン、都民の総水使用量約20億トンをはるかに上回る量です。そのほとんどが地下に戻されることなく巨大な排水システムにより下水として捨てられています。その一方で巨額の税金を投入して、自然破壊して造ったダムに水源を依存している大都市のあり方はなんと不合理なことでしょう。コンクリートとアスファルトで固め、健全な水循環を断ち切っている都市構造は、集中豪雨に見舞われれば、たちまち都市洪水をひきおこすリスクをはらんでいるのです。

もし、雨を排除するのではなく、水資源として貯留し活用するならば、東京の水事情は大きく変わる可能性を秘めています。雨水利用の原点はここから始まりました。私たちは「遠くのダムより身近かに水源を！」という合言葉で、各家庭に200リットルの雨水タンクを設置しようという運動を進めています。屋根と雨桶さえあれば、小さなバケツから大型タンクに至るまで自由自在に雨水を貯めることができます。災害時の非常用水にも活用できることから助成金制度を導入して普及につとめる自治体が全国的に増え、東京でも9つにのぼっています。

我家でも駐車スペースの下に2トンのタンクを設置して、トイレ用水はすべて雨水だけで賄っています。両国の国技館、東京ドームなど、大規模施設の雨水利用はよく知られているところですが、学校、公共機関、集合住宅でトイレ用水に雨水を利用する環境共生建築は増加しつつあるのです。

循環型社会の創造をめざす東京都が、こうした試みの先頭に立って、水の総合政策の一環として雨水利用を進めれば、公共施設をはじめ、民間施設、個人住宅での雨水建築は飛躍的に増加するでしょう。小さな点が大きな面となり雨水を貯めて活用することから学ぶ水の大切さは、都民の節水意識を高めて、今後一層、水需要の低減に拍車をかけるのは必至です。新しい水源開発など、全く必要ありません。

しかるに、東京に約50年前からハツ場ダム計画のしかかっていたことを、私は1年半前まで全く知りませんでした。本当に無知だったと思います。2003年11月、初めて川原湯温泉を訪ね、紅葉に彩どられた溪谷を目の当りにして、今さらここにダムを造って自然を破壊し、温泉街を水没させるなんて絶対に認めるわけにいかないと決心しました。

この半世紀、社会的にも経済的にも著しい変化があり、東京都はすでに十分な水源を保有しているではありませんか。水需要は横ばいが続き、2015年をピークに人口減が予想され、水余りの時代になると予測されています。東京都はこうした客観的事実にもとづいたダム計画の見直しや十分な検証をどれだけ行ったのでしょうか。明確な説明責任を果たさぬまま、総事業費の増額にあっさり同意して、その負担を一方的に納税者に転嫁しようとする行為は到底納得がいきません。この期に及んで新たなダムを造ることは、税金のムダ使い以外の何ものでもありません。

これから私たちが為すべきことは、50年にわたってハツ場ダム計画のために生活と人生設計を踏みにじられてしまった地元住民の方々へ、最大限の償いをするのではなく、いでしょうか。と同時に今後の生活再建のために、十分な補償を行うよう国と関係自治体に責任をとらせることではないでしょうか。

そのためにもハツ場ダムが必要ない、有害でさえあるとい事実を十分検証して下さるよう要望して、私の意見陳述を終わります。

2005年2月16日

田中清子